

はじめに

現在、中央集権型社会から地方分権型社会へと、わが国の社会の基本的な枠組みの転換が起きようとしています。国が全てを決めていく中央集権型社会から住民一人ひとりが主役となる地方分権型社会への転換を図るためには、行政のあり方も、これまでの利害を調整・配分する「配分型行政」から住民との「協働型行政」へと転換していかなければなりません。どうすれば住民のみなさんの力を活かせるか、地域の力を活かせるか、地域の個性を活かせるか、常に考えながら行動することが行政にとって重要となっています。

このような中で、京都府では、多様化する府民ニーズや地域の個性に応じた施策を展開し、府民の知恵や創意工夫を活かした個性ある京都府づくりを推進するため、平成14年12月に「府民参画行動指針」を策定し、「府政の透明性確立」、「府政への府民参画」、「府と府民との協働」の3つの理念に基づいて、様々な府民参画・府民協働の取組を実施してきました。併せて、平成19年度からは、地域に暮らす方々が、自らが住む地域を暮らしやすい魅力的な地域にすべく、自ら考えて行動する活動を応援する「地域力再生プロジェクト」を立ち上げています。

これらの取組の結果として、職員側の意識改革については着実に進み、府民の皆さんにおいては自ら進んで地域活動に取り組もうという方々の存在が明らかになっています。

今回、これら地域における動きを捉え、さらに推進していくため、府内市町村に御協力をいただき、住民と行政とがそれぞれの役割分担のもと協働して地域づくりを行っている事例について集めることとしました。事例収集にあたっては、住民側の方々の思いや声、行政側担当者の苦労話、気づきなどを可能な限り取り入れるように心がけています。

事例を収集しながら強く感じたことは、住民の皆さんが日常生活の中で感じた何らかの思い（たとえば、「ほっとけない」、「何かやりたい」）を実現するために一歩踏み出すことが、今後、地域を暮らしやすく魅力的にするためには欠かせないということです。

行政は、そのような一歩踏み出そうとしている方に必要な情報を提示する、軽く背中を押す、そして踏み出した方に対して可能な範囲で支援を行う、これが住民と行政との協働ではないかと考えます。

これを読まれた方が一人でも多く、「私も何かやりたくなった」と、一歩踏み出されることを心から願っています。さあ、地域をもっと住みやすくするためにあなたの力を！

京都府府民参画推進プロジェクト
(京都府企画環境部企画参事)